

## 学位論文の調査要旨

専攻名 (又は推薦専攻名)	地域イノベーション学専攻	氏名	岡山 大成
学位論文題目	美杉町太郎生における地域課題を考慮したメダラ移植栽培法		
調査委員会	委員長 小林 一成 委員 西村 訓弘 委員 加賀谷 安章		
<p>調査結果の要旨</p> <p>本研究は、美杉町太郎生における地域課題の解決をモデルとして、この地域の耕作放棄地に適する作物を選定し、阻害因子である獣害問題への対処を実践するとともに、地域課題の解決に有用なツールになり得る「プロセスモデル」について論じたものである。</p> <p>地方山間部においては、農業従事者の高齢化や後継者不足が耕作放棄地の増加を引き起こし、獣害による農作物被害が周辺地域にまで拡大することに繋がっている。そこで本研究では、美杉町太郎生における耕作放棄の理由を現地調査により洗い出すとともに、数十種類の農作物や観葉植物の育成を試みた。この結果、この地域に最適の作物はタラノキであり、特に棘の無い品種であるメダラは高級食材として高い収益性が見込めるとの結論に至った。さらに、現地調査の結果、この地域においてはシカによる獣害のため作物の露地栽培が非常に困難であり、メダラの移植栽培における獣害防除が課題であることが明らかになった。一般的な獣害対策は、農地を防獣ネットで囲い込み、害獣の侵入を防ぐものが多いが、美杉町太郎生では傾斜地が多い上に、地表から浅いところに岩盤がある土地であるため、通常対策では対処が困難である。そこで、このような地域特性に合致し、低コストで実現可能な保護竹の利用を試みることにした。現地での実験結果から、170 cmの高さまでメダラを保護竹で覆う方法を考案し、シカによる害を防除できることを実証した。さらに、このモデルケースから、地域の課題を解決する思考・行動の工程を「プロセスモデル」へと構築し、他の地域における課題解決にも応用可能なツールとして有用である可能性を示した。これらの研究成果は、地域イノベーション学における学問的な成果にとどまらず、地域の課題解決につながる可能性を秘めた実践的価値が高いものであると言える。</p> <p>以上の結果を総合し、本調査委員会は、本論文が博士(学術)の学位を授与するにふさわしいものと判断した。</p>			